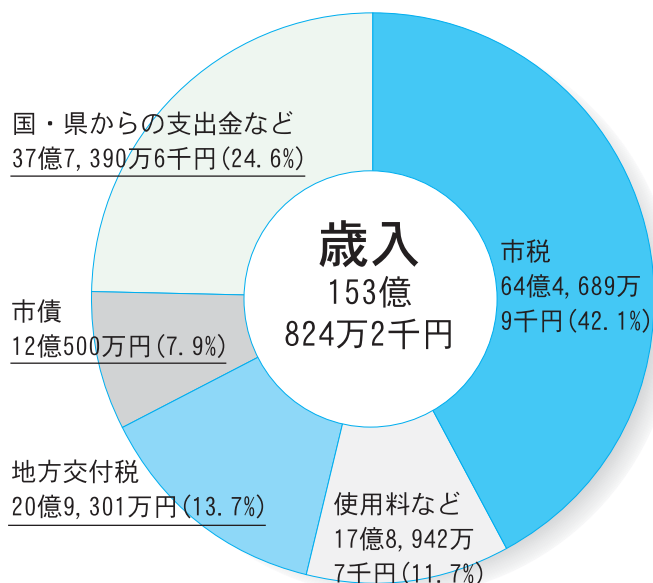


平成22年度決算

平成22年度の決算が9月定例市議会で認定されました。ここでは、みなさんに納めていただいた市税や国・県からの支出金などの収入をどのように使ったのかをお知らせします。

問合せ 財政課(一般会計・特別会計) ☎(43)1111内線252・水道管理課(水道事業会計) ☎(48)0050(直通)



▼一般会計決算

歳入の総額 153億824万2千円
(前年度と比べ4億4,852万3千円増)

歳出の総額 141億5,276万円
(前年度と比べ1億3,854万7千円増)

形式収支(歳入と歳出の差し引き)
11億5,548万2千円

実質収支(決算剰余金)
8億5,231万3千円

市民1人あたりの市税負担額は？ 118,413円 人口54,444人(平成23年3月31日現在)

歳入の状況

▼市税収入は全体の42・1%

歳入で最も多いのは、みなさんに納めていただいた市税(市税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、都市計画税)で、全体の42・1%を占めています。なかでも市税は、市税収入の約半分を占める大切な財源となっています。

なお、都市計画税は市街化区域内に所在する土地や家屋に課税されるもので、下水道や街路、公園整備などの都市計画事業に使われます。平成22年度は3億521万4千円の収入があり、主に下水道事業に使われました。

▼歳入は3・0%の増加

引き続き市税収入は低迷しているものの、地方交付税や国・県からの支出金が大幅な増額となったことから、歳入全体では前年度より3・0%増加しました。

歳出の状況

▼福祉関連事業に34・5%

歳出は福祉に関する経費の民生費が最も多く、全体の

34・5%を占め、障がい者や高齢者の福祉、子育て支援、生活保護などに使いました。つぎに多い総務費は14・4%

を占め、幸手駅バリアフリー工事に対する負担金などに使いました。

土木費は10・2%を占め、圏央道関連の市道整備や道路・公園の維持管理などに使いました。

教育費は10・1%を占め、小中学校体育館の耐震補強工事、幼稚園・小中学校教育などに使いました。

▼歳出は1・0%の増加

国の景気対策に係る事業や子ども手当の支給、生活保護費の増加などの影響から、歳出全体では前年度より1・0%増加しました。

決算書は市役所
情報公開コーナー
で閲覧できます

一般会計の主な事業と決算額

▼民生費(福祉に関する経費)

子ども手当・児童手当の支給	8億3,602万円
生活保護費の支給	7億8,295万円
子ども医療費の支給	9,271万円

▼総務費(市の内部管理などに関する経費)

日本保健医療大学設立に係る補助金	1億円
幸手駅バリアフリー工事に対する負担金	3,689万円

▼土木費(道路、橋や公園などに関する経費)

圏央道関連事業(産業団地整備も含む)	2億1,059万円
公園の維持管理	1億5,798万円
道路の維持管理	1億3,610万円

▼教育費(教育に関する経費)

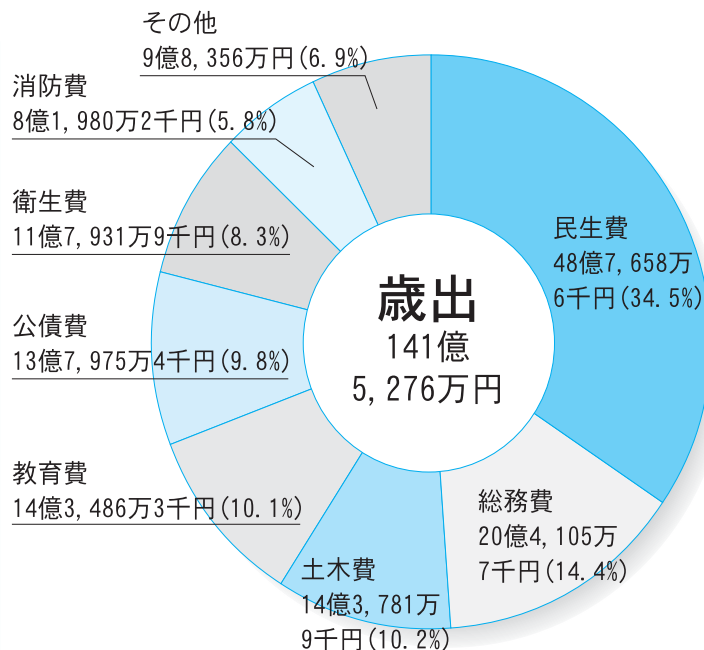
アスカル幸手の管理運営	9,969万円
小中学校体育館の耐震補強工事	8,187万円
私立幼稚園に通う園児の保護者への援助	6,150万円

▼衛生費(保健や環境対策に関する経費)

ごみ処理やリサイクルの推進	6億5,654万円
乳幼児などへの予防接種の実施	7,350万円
母子健診の実施	3,259万円

▼消防費(消防や災害対策に関する経費)

消防団の運営	2,985万円
消防団のポンプ車の整備	1,415万円
防災対策の推進	1,006万円



市民1人あたりに使ったお金は？ 259,951円

たとえば

民生費に	総務費に	土木費に
89,571円	37,489円	26,409円

決算収支の状況

▼収支は8億5千万円の黒字
形式収支歳入と歳出の単
純な差し引きは11億554
8万2千円となりました。
このうち翌年度に繰り越し
て実施する事業のための繰
越金3億316万9千円を
除いた実質収支決算剰余金
は8億523万1千3千円で、
前年度より3・6%増加し
ました。

▼市債と基金の状況

市債(借入金)の年度末現
在 high は114億6570万



9千円で、前年度より28
4万6千円増加しました。
また、災害復旧や大規模
事業などの財源として積み
立てている基金(貯金)の年
度末現在高は16億4467万
6千円となり、前年度と比
較して3億256万2千
円増加しました。

健全化判断比率をお知らせします

～当市は、すべての比率で基準を下回っています～

健全化判断比率は、市の財政の健全度を判断するための
もので、それぞれ判断基準である早期健全化基準〔 〕
で表示しています。)などが設けられています。早期健全
化基準はいわゆる「イエローカード」で、これを上回ると
早期健全化団体と位置づけられます。

実質赤字比率 ー%〔13.39%〕

一般会計の赤字が一般会計の収入に比べ、どの程度かを表
すもの。赤字ではないため、該当無し「ー」となります。

連結実質赤字比率 ー%〔18.39%〕

市の全ての会計を合算した場合の赤字の程度を表すもの。
赤字ではないため、該当無し「ー」となります。

実質公債費比率 9.9%〔25.0%〕

市債の返済額などの程度を表すもの。

将来負担比率 54.7%〔350.0%〕

今後、返済する市債の残高など、将来支払う負債の程度
を表すもの。

特別会計決算

会計名	歳入	歳出
国民健康保険	65億6,037万3千円	59億7,613万7千円
老人保健	914万3千円	914万3千円
後期高齢者医療	3億6,031万3千円	3億5,449万7千円
介護保険	22億7,881万1千円	21億2,894万円
農業集落排水事業	2,644万2千円	2,456万1千円
公共下水道事業	8億742万8千円	7億6,572万1千円
水道事業	収入	支出
収益的収支	11億2,153万1千円	10億825万円
資本的収支	784万5千円	3億1,532万4千円